

南部町

鳥取県西部地震から以降、自主防災組織を作らなければということで積極的な働きかけと地元の協力で、50を超える集落で自主防災組織が結成され、自主訓練をやっていただいています。ただ、水害を想定した訓練は現在ありません。

先般もコンサルタント業者から洪水ハザードマップを作ってはと提案があったのですが、重要工作物であるダムが決壊するというような話ですから、ダムを管理していただいている県との連携の中でないといけないところです。

私は水位や時間雨量、積算雨量についての危険基準が、はっきりしていないと思います。それぞれの地域ごとに設定がなければならないのではと思います。

仮に避難命令を出しても、「いや、大丈夫だ」と言われてなかなか応じられない方もありますから、やはり日常的に訓練をやっておかなければならないという気がしています。



坂本町長

日南町

災害時に電気も電話もすべてダメという状況の中では、防災無線が一方通行ながら唯一の情報提供手段としてあります。その辺で情報の把握、現場の把握というのがなかなか難しい面もあります。

日南町のように高齢化し、独居老人あるいは老人だけの世帯が多い地域については、勧告まではなかなか難しく、いざというときには自主避難をしていただくことが一番ではないかと考えています。

水防対策はあらゆる面から検討しなければなりません、情報の相互提供ということではやはり市町村が一番もともになると思っています。国、県、あるいは消防との連携ということが今後重要になってくるなということを感じました。

市町村の役割はやはり身近な問題として、食糧や福祉、住宅のお世話だと思います。社会資本の整備としての水防対策は国、県で積極的に取り組んでいただきたい。自分の地域は自分で守るというのが基本になりますが、役割分担をよろしくお願ひしたいと思っています。



矢田町長

日野町

根雨駅の上に鉄橋がありますが、これに日野川の水がちよこちょこ当たるようになると、「たくさんに降ったなあ。水が出たなあ」と思うのが、住民の皆さんの考え方であり認識だと思っています。これが日野川水域の警戒水位あるいは危険水位というような感じています。4年前の地震を機会に、10月6日を防災の日として、毎年、全町一斉に防災訓練を行っています。地震と風水害はちょっと違いますが、住民の命を守るということについては、ともに助け合うということが大切であると、自主防災組織の強化を図っています。自治会ごとに防災責任者をつくり、避難場所や情報をどのように流し収集するかということで、住民のリストをつくって災害の弱者を把握するというも行っています。

日野町では1戸、2戸で点々と民家が存在します。大きな災害が起きた場合には土砂が民家を押し流したり、直撃することも考えられます。今後とも急傾斜対策のような事業をぜひとも続けていただきたいと思っています。



梅林町長

江府町

自主防災組織の活性化が大切だと思います。水防等も含め一番身近でまとまりやすい地域の自主防災をきちんとしていきたいと思っています。

行政的には、住民の安全・安心を守る・させる・していただくということを最優先に、行政的組織と防災対策組織でしっかりと訓練を重ねていきたいと思っています。

先般の台風23号のときに俣野川の下蚊屋集落上流において、急傾斜から河川内に土砂や立木が落ちてせき止めたような状況がありました。県土整備局から緊急に対応いただいて、住民の安全を確保出来ました。今回初めて経験をいたしましたので、今後町内においても、せき止めによる水災害の可能性もあと想定をしていきたいと思っています。



竹内町長

溝口町

近年、町の水害でこれといったものはありません。しかし、日野川の警戒水位をかなり超えることがありましたので、大江川の合流点から野上川の合流点までの堤のかさ上げが今後の大事な課題ではないかと思っています。

溝口町における伝達方法としましては、町内24カ所あります屋外防災行政無線と、町のCATVでの音声告知放送があります。そして溝口町防災マップがあり、この中には水害ばかりでなく、土石流、地すべり、急傾斜等の危険箇所を載せて、住民の意識の高揚を図っています。



白根土木課長